



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

## 「朱夏の女優黒木瞳のインド ⑤」

タージマハールの東外門近くに、観光客の知らない日本と関係がある施設がある。救済センター (JALM) である。1964年宮崎松記博士によって設立された。実はわが輩は1971年施設内の宿舎に泊まったことがある。そのころ職員であった竹内和利さん (京都ノートルダム女子大教授) の部屋を使わせてもらった。

若い看護師さんが病室を案内してくれたが、恥ずかしながらドアのノブが触れなかった。

「駅で物乞いをしていた患者の傷口にとまった蠅が、わが輩の傷口にとまったのですが、感染するでしょうか」

無知なるわが輩は、恐る恐る日本人医師に聞いた。

「感染していたら十年後に発症するでしょうね」

十年か・・・わが輩は十年先のわが身を思い浮かべていた。そのとき、長いと思ったのか、短いと思ったのか、忘れてしまった。

わが輩が泊まったとき宮崎博士は日本に帰国中で会えなかった。ご縁がなかった。

「わたしは宮崎の姪です」

ところが40年後、閑空で唐突にわが輩にコトバを發したご婦人がいた。わが輩の顔のどこにも JALMA あるいは“みやざき”と書いてはいないし、語ったこともない。わずか三分程の接触だが、どうしてご婦人はそのようなコトバを發したのか、いまだに不思議でならない。

宮崎博士は1972年6月14日 JAL 墜落事故で死亡された。現場はデリー空港近くのヤムナー河畔であった。河を100キロ程下ると聖地マトゥラー、そしてタージマハル (ヤムナー河左岸) に到る。

監督は、脚本家でもある。自分で脚本を書いて自分の好きなように制作する。

「大魔王よ。ガンジス河に行けないか。ベナレスは近いか」

監督が突然訊ねてきた。アーグラからベナレスまで565キロもある。無理だ。

「それらしい風景のところはないか」

わが輩には隠し玉があった。ベナレスに似た風景が近くにあることを知っていた。アーグラの北西58kmに位置するマトゥラーである。若いころ妻と義妹と三人で、マトゥラー聖地巡りをしたことがあったからである。

マトゥラーは現在ヒンドゥー教の聖地だが、ブッダ時代の十六大国のひとつ、スーラセーナ国の首都であった。古くからの通商路の要所でヤムナー河が連結する商業都市でもあり宗教都市でもあった。仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教の遺跡が周辺から発掘されている。

仏像が多く出土し、クシナーガルの涅槃仏はマトゥラーからの仏師が制作したとも云われている。また大統領官邸における首相就任などの儀式は、ここで出土した最高傑作の仏陀像の前で挙行される。幸運にも一度だけ拝んだことがある。

マトゥラーはインドで最も愛されているクリシュナ神生誕の聖地である。クリシュナは哲学的聖典『バガヴァッド・ギーター』の主演であるが、『バーガヴァタ・プラーナ』に登場するクリシュナは世俗的である。青年クリシュナがヴリンダーヴァン（森林）で、牛飼い女（ゴープー）と愛の戯れを演じる場面などが描かれている。『プラーナ』に由来する場所がたくさんあって、物語を読んでいくと楽しい。さしずめ聖地のテーマ・パークのようである。

その物語の一つに、クリシュナが悪王カンサを倒した後に休息したヴィシュラーム・ガートという沐浴場がある。ベナレスのようにボートに乗ってガート（階段）を眺めることができる。ベナレスまで行けない人は、ここで“小ベナレス”を味わうことができる。

「よし、そこに行こう！」

（ノリの早い監督だ）

監督の構想に、女優がその川に手を浸けるシーンがあった。

（誰が浸けるの？）

「かたせならやるよ。あいつは何処でもトイレができる。根性の座った女だよ」

監督がスタッフに話しているのを聞いた。

ガートについて分かったことは乾期のため水量が少なかった。水藻が浮かんで、不潔感がただよっていた。

（これじゃダメだよ。かたせさんでも）

もちろん、そのシーンはボツになった。

そこにサードゥ（遊行者）がやってきた。俳優とスタッフは、珍しがって次々に行者と写真を撮り始めた。撮影よりも観光気分である。わが輩も皆さんの記念写真を撮ってあげた。

（おっと待てよ）

わが輩が入っていない、と気づいたのは日本に帰ってきてからであった。